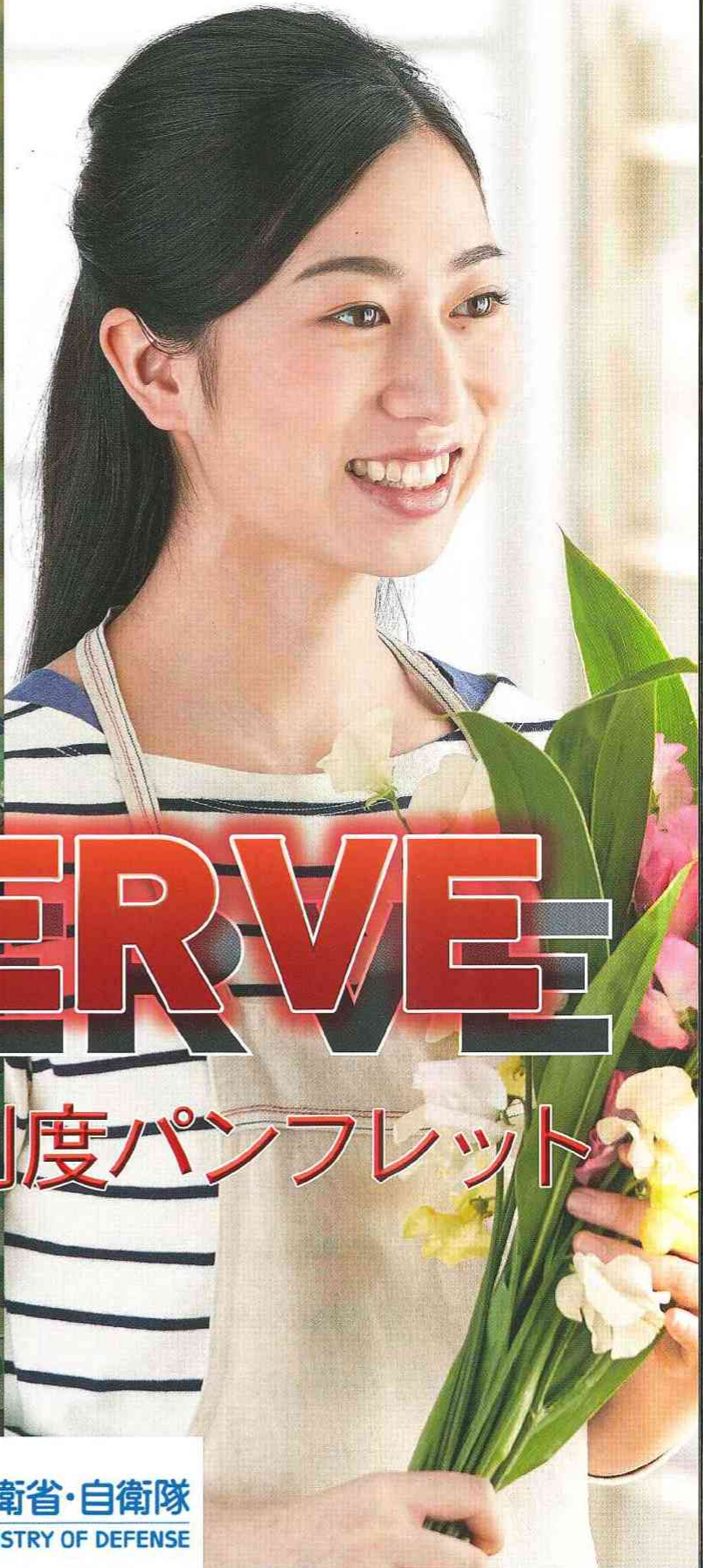
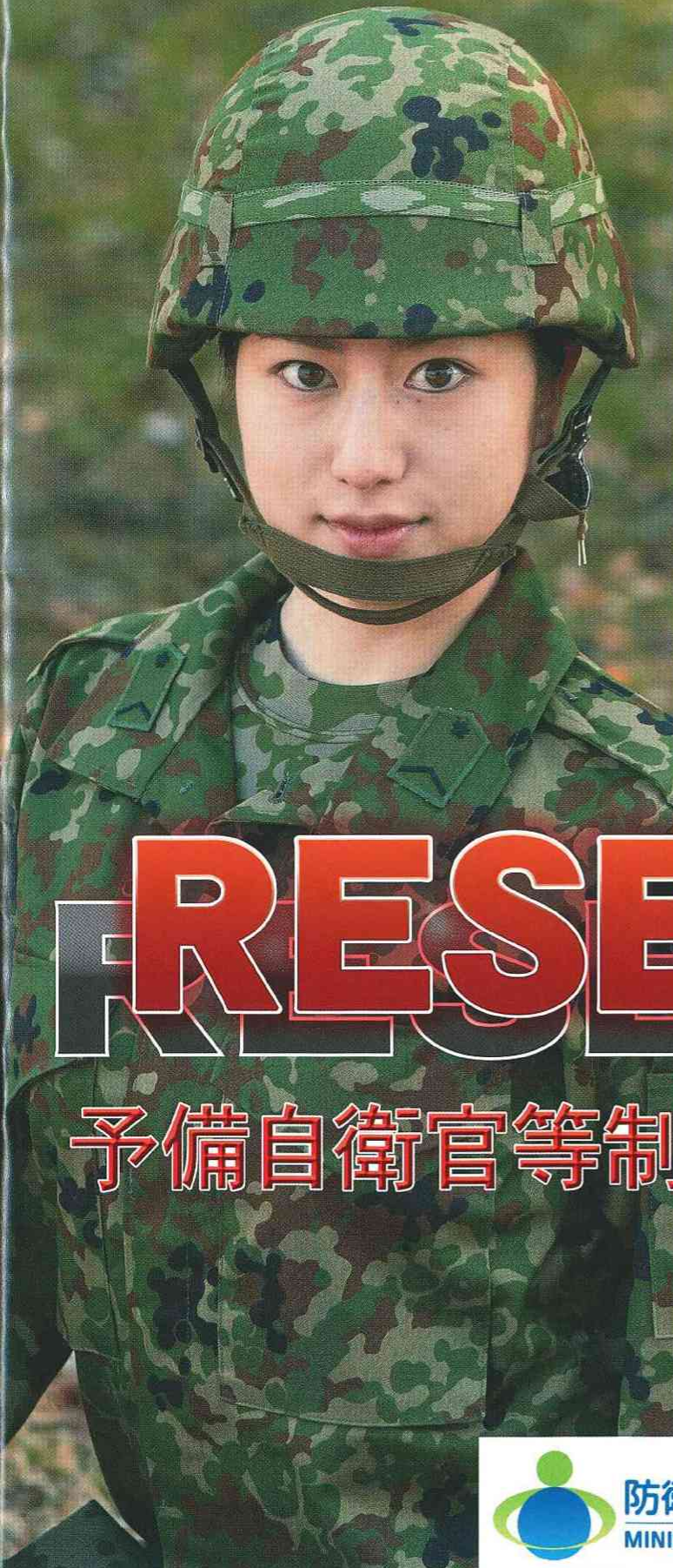




予備自衛官制度
即応予備自衛官制度
予備自衛官補制度



RESERVE

予備自衛官等制度パンフレット



防衛省・自衛隊
MINISTRY OF DEFENSE

雇用企業主様の声

1. 即応予備自衛官等雇用企業様の声

社会福祉法人つつじヶ丘学園
施設長 恒松 雄輔 様

当施設は、球磨郡あさぎり町で昭和47年に社会福祉法人を設立し、40年以上に渡り主に知的障がい者の福祉の推進を行う障害者支援施設です。また、その中で地域づくり、社会貢献にも積極的に取り組んでいます。

即応予備自衛官の前田さんは、生活支援員として日々利用者の方に向き合い生活支援、就労支援を行っています。採用後5年目を迎え、中堅的な立場となる一方、半年ごとの訓練計画についても本人と相談し、参加予定を立てておりました。

平成28年4月14日の前震、16日の本震が熊本、大分を襲い、未曾有の災害となりました。私自身、前震の翌日と本震の翌日に物資を届けに被災地へ行き被害の状況を目の当たりにしていました。そのような時、被災地への即応予備自衛官の派遣依頼がありました。自分で支援の必要性を目の当たりにしておりましたので派遣の依頼は想定しており、本人との話し合いのみでした。「地元熊本が被災でいま即応予備自衛官が必要とされている。いずれ行くのであればいち早く行った方がいい」と声をかけ、本人がいない間は他のスタッフが勤務調整など配慮をして送り出すこととなりました。

本人はマッサージの経験もあり、避難所生活をされている方に対して施術を実施し、ほんの少しですが「癒やし」を与えられたと思います。また、事業所として即応予備自衛官を採用してきて5年になりますが、これまでその必要性や意義を考えることも、あまりありませんでした。しかし、今回の熊本地震を通して、即応予備自衛官の必要性と意義を感じることができ、採用して初めて貢献できたと感じました。

これから、いつどこで地震や災害が起きるか分かりません。本人のモチベーションも必要ですが、『協力出来る体制』を私たちに出来ることの一つとして、続けて行きたいと思います。



2. 予備自衛官雇用企業様の声

株式会社ネクスコ・サポート北海道
代表取締役社長 稲葉 猛志 様

弊社は、お客さまや地域の皆様の期待に応え「あなたに、ベストウェイ。」をお届けする高速道路のプロ集団として、平成19年10月から北海道内の「料金管理業務」及び「交通管理業務」を担当しているNEXCO東日本グループの会社です。

予備自衛官等雇用業務の推進に関しましては、平成24年に北部方面総監より感謝状を頂きました。

弊社の自衛官経験者は、現在140名在籍しており、うち29名が予備自衛官として勤務しております。自衛隊にて教育訓練された団体行動や、規律ある動作は社員の良き模範となっており、それぞれ活躍しております。

年間5日間の招集訓練では、事前に参加日程の調整を行い、年休・特別休暇等を利用して参加しています。招集訓練の際は、弊社としても最大限協力していきたいと考えております。



予備自衛官等の声

1. 即応予備自衛官の声

社会福祉法人つつじヶ丘学園勤務
第24普通科連隊重迫撃砲中隊
即応予備3等陸曹 前田 幸紀

平成28年4月、熊本県熊本地方を震源とした地震が発生した。前震と言われる1回目の地震、本震となった2回目の地震により熊本県、特に益城町が壊滅的被害を受けているのを知り、地元熊本県出身の自分に何か出来ないかと自問自答している矢先、即応予備自衛官に災害派遣の招集命令が発せられていることを聞き、すぐに職場の上司に相談をしました。

すると職場の上司からは「会社の被害は少ないので、何も気にせず行って来い」と後押しをしていただき、迷わず災害招集に応ずることを決意しました。

私が派遣された益城町では、給水、入浴、仕分け支援等、主として生活支援が行われ、特に、即応予備自衛官の保有資格を活かした看護師による衛生指導、調理師による炊事支援、フォークリフトによる支援物資の積載等の派遣活動がなされました。

私は、整体師としての特技や、現在の職業である生活支援員という立場を活かし、被災者の心と体のケアを行い、地域の方々とのコミュニケーションを図りました。また、地元出身者として地域に寄り添った密接な支援により、今回の災害派遣活動に微力ながら貢献できた事を嬉しく思いました。

これも今回の災害派遣招集を後押ししていただいた職場の上司をはじめ、フォローしていただいた職場の皆様、共に災害派遣に従事した自衛官の方々のおかげだと感謝しています。

最後に、活気ある熊本県に早く戻れるよう、早期の復興を願っております。



2. 予備自衛官の声

自衛隊岐阜地方協力本部
予備陸士長 黒木 弥生

3年間の予備自衛官補（一般）の訓練修了、予備自衛官として現在5年目を迎えています。

予備自衛官補に採用されるまで、自衛隊との関わりは一切なく、「自衛隊とはどんなところだろう。」という素直な関心でした。それに加え、災害時や有事の際の「もしその時」のことを考えると、「自分は何かできることはないだろうか。」と言う思いと、例え招集されなくとも、自衛隊で学んだ経験が今後何かの役に立つのではないだろうかとの思いから、志願しました。

全く知識もなく挑んだ予備自衛官補の訓練は、苦難の連続ではありましたが、良き仲間とめぐり会えたこともあり、何とか乗り越えることができました。その当時の仲間とは、今でも良き友人です。

予備自衛官訓練については、仕事等の関係で分割出頭されている方もいるなか、私は勤務先の理解もあり5日間の連続出頭が可能であり勤務先には大変感謝しております。

予備自衛官補出身者と元自衛官の方との練度の差は明白であり、年5日間の訓練ではとても埋め切れるものではありませんが、少しでも多くの事を学び取り、予備自衛官として恥ずかしくない自分を目指して頑張っていきたいと思っています。



VOL.5

KUMAMOTO 2017

予備自衛官

絆 Reserve



即応予備自衛官



予備自衛官



予備自衛官補

特集 災害派遣

熊本地震



16式機動戦闘車(MCV)

がまだせ 熊本 !!

自衛隊熊本地方協力本部

URL: <http://www.mod.go.jp/pco/kumamoto/>

活動状況



給水支援

災害派遣協力企業の声

社会福祉法人つつじヶ丘学園(球磨郡あさぎり町)

施設長 恒松 雄輔 様

(派遣隊員:第24普通科連隊 即応予備3陸曹 前田 幸紀)



当施設は、昭和47年に設立し、主に知的障害者の福祉の推進を行う障害者支援施設です。

また、地域づくり、社会貢献にも積極的に取り組んでいます。

雇用中の1名の即応予備自衛官は、生活支援員として日々利用者の方に向き合い生活支援、就労支援を行っており、採用後5年目を迎え、中堅的な立場となる一方、半年ごとの訓練計画は本人と相談し、予定を組んでいます。

平成28年4月14日のM6.5(震度7)の前震、16日のM7.3(震度7)の本震が熊本、大分を襲い未曾有の災害となりました。私自身、前震の翌日と本震の翌日に物資を届けに被災地へ行き、被害状況を目の当たりにしておりましたので、即応予備自衛官派遣の依頼は想定しており、本人との話し合いのみでした。「同じ熊本が災害でいま必要とされている。いずれ行くのであればいち早く行った方がいい」と声をかけ、本人不在間は他のスタッフが勤務調整など配慮をして送り出すこととなりました。

本人はマッサージの経験もあり、避難所において施術を実施し、わずかですが「癒やし」を与えられたと思います。また、事業所として即応予備自衛官を採用してきて5年になりますが、これまでその必要性や意義を考えることも、あまりありませんでした。しかし、今回の熊本地震を通して、即応予備自衛官の必要性と意義を再認識し、採用して初めて貢献できたと感じました。

今後も、いつどこで地震や災害が起きるか分かりません。本人のモチベーションも必要ですが、『協力出来る体制』を私たちに出来ることの一つとして、可能な限り続けて行きたいと思っています。